

5 文部科学省 CBT システム（MEXCBT）の活用

文部科学省では、GIGA スクール構想により、児童生徒 1 人 1 台端末環境が整備されたことを踏まえ、児童生徒が学校や家庭において、国や地方自治体等の公的機関等が作成した問題を活用し、オンライン上で学習やアセスメントができる公的 CBT（Computer Based Testing）プラットフォームである「文部科学省 CBT システム（MEXCBT：メクビット）」の開発・展開を進められています。令和 5 年度には全国学力・学習状況調査の英語「話すこと」調査等でも活用されることから、今後も ICT 環境を活用することで個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させていくことが重要です。

I 基本的な考え方・仕組み

MEXCBT には、令和 4 年 12 月時点で全国の公立小中学校の約 80%が登録しており、児童生徒は国や地方自治体等の公的機関等が作成した問題に取り組むことができます。児童生徒は、学校や家庭において MEXCBT を活用し、学習やアセスメントを行うなど、1 人 1 台端末を活用した「デジタルならではの」学びを実現することができます。また、教員による問題作成も可能であるとともに、記述式問題に対する教員の手動採点も試行されることから、指導と評価の一体化の充実に向けた活用も期待されます。

なお、MEXCBT の活用にあたっては、「学習 e ポータル」を利用します。「学習 e ポータル」には、MEXCBT にアクセスする機能があるほか、多様な学習リソース（デジタル教科書・教材、各種ツールなど）の互換性のあるデータを一覧的に可視化して活用することができる窓口機能、各ツールそれぞれに ID・パスワードを入れてログインせずとも学習 e ポータルを通じ 1 度のログイン操作で複数のツールにアクセスできるようになる機能等が備わっています。

II 活用事例

〔小学校での事例〕

- 活用の概要
 - ・国語、算数等の朝ドリル学習や家庭学習として、自治体提供の問題や全国学力・学習状況調査等を活用
 - ・自動採点機能を活用した復習の実施や、課題等の把握による授業改善の取組の推進

○ 活用による効果

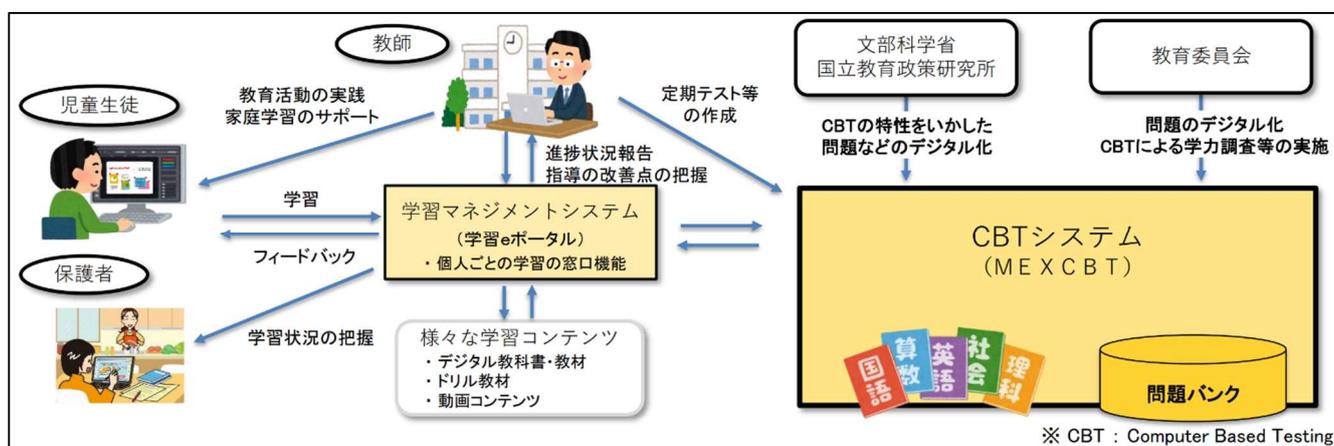
- ・各種問題等への取組による資質・能力の育成
- ・学習意欲の向上やパソコンの操作スキルの向上
- ・紙ベースとの併用による児童の選択肢の増加

〔中学校での事例〕

- 活用の概要
 - ・日常の各学年の課題、長期休業中の宿題、臨時休校期間中の課題として活用
 - ・家庭学習用にテストグループを作成し、問題を配信することにより、生徒が選択して家庭学習を実施

○ 活用による効果

- ・主体的に問題に取り組むなど、学習意欲の向上
- ・学習内容の定着に向けた取組の充実
- ・学習課題への取組に対する即時評価、指導の充実



【MEXCBT 活用のイメージ図】

【参考資料】

・文部科学省 CBT システム（MEXCBT：メクビット）について（文部科学省）



・「学習 e ポータル」まとめページ（ICT CONNECT 21）

